

分裂組織に組合員を引きずり込もうとする、一部の先導者を許さず 中央本部・全組合員と共にたたかい抜く本部 OB 会見解

18 春闘の過程で要求の前進も図れず、大量の離脱者を生み出してしまった現実を直視し、「大敗北」と総括した JR 東労組は、これまでの運動を反省すると共に、組合員とともに新生 JR 東労組運動を創り出してきた。そして、2018 年 4 月の臨時大会以降、100 名を超える仲間が再結集し 2020 年をスタートした。

いま、中央委員会をまえにして、水戸・東京・八王子地本内の一部運転職場で、新生 JR 東労組運動と決別する分裂組織結成の動きが報告されている。職場集会で、「JR 東労組に残るのか」「分裂組織に行くのか」「組合を辞めるのか」の選択を迫っていると言う。彼らに問いたい！国鉄改革時の国労指導部のように「あの沼地へいこう！」と叫び、組合員を連れて行くことが、君たちが主張していた「組合員に寄り添う」と言うことなのか！

職場の組合員からは「緑の風も討議資料も配付されない、本部の FAX ニュースも掲示されない」「時間のなかで判断を迫られる」「どうしていいのかわからない」「分裂してほしい」など不安と混乱の声が中央本部に届いている。真実を伝えず、嘘とデマを基礎にした誤った方針で組合員を惑わせ、混乱を組織に持ち込むことは直ちに止めるべきだ！本部 OB 会は分裂策動を断じて許さないし、組織破壊者とは断固対決する。

また、あたかも分裂組織が第一組合になれるようなデマを流し、組合員を誘導しようとしている。事実、現在においても 3 地本の組合員数は過半数を超えていない。そもそも分裂組合が第一組合になった歴史はない。会社としっかり向き合うことを求める組合員の意識に対し、会社との対立だけを掲げる分裂組織は少数派になることは歴史の必然である。

分裂を先導するものは、18 春闘の指導責任を反省せず、スト権投票時に賛同することを組合員に強要したように、いままた組合員を引き回している。分裂者は常に言う「組合員のため」と。しかし事実、自らの主義・主張が通らないからと言って嘘・でたらめで組織を分裂させているだけである。

分裂を先導する諸君！組合員を引き回すのはやめてほしい！たしかに、諸君は沼地であろうとどこであろうと好きなところへいく自由がある。ただ、組合員を沼地に連れて行く自由はない。ただちに、組合員の手を離すべきである。

いまやらなければならないことは、分裂組織を創り、そこへ組合員を引きずり込むことではない。組合員の雇用と利益を守り、幸せを実現することだ！会社の発展を目指し、労使関係においても職場の声を基に施策に真剣に向き合い「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実感できる職場を創り上げることである。新生 JR 東労組の旗の下に結集することを全ての組合員・離脱者に堂々と訴える中央本部と共に本部 OB 会は「老害」になることなくたたかい抜くものである。

2020 年 1 月 29 日

JR 東労組本部 OB 会